

「もらう」に関する日本語とスペイン語の対照

長谷川 哲 子

“MORAU” and its corresponding Spanish expressions

HASEGAWA Noriko

Abstract

There have been a considerable number of studies on Japanese benefactive expressions, but the particular aim of this article is to contrast the Japanese verb MORAU with its corresponding Spanish expressions, focusing on the grammatical form of the giver and the receiver.

The results of this study have ascertained that : (1) MORAU corresponds, literally and grammatically, to the Spanish verb RECIBIR and similar verbs ; (2) in Spanish expressions the receiver tends to appear not as a nominative, but as a dative, and in this pattern the subject often tends to be impersonal ; (3) MORAU is frequently used in grammatical construction for making requests and asking for permission.

1. 本稿の目的

本稿は日本語において授受を表す動詞のひとつである「もらう」とスペイン語における当該の表現との対照をこころみるものである。

本稿では、「もらう」をめぐる日西対照に先立ち、まず先行研究を概観した後、用例に基づいて「もらう」とスペイン語での対応表現をみていく。また、スペイン語における受益者・授与者の表出形式に着目しながら考察を進める。

2. 先行研究

日本語の授受表現については、これまでに幾多の先行研究が見られる。

以下では、日本語の授受表現に関する先行研究、授受表現に関して日本語と他の言語との対照を行った先行研究、さらにスペイン語の与格に関する先行研究を概観する。

2.1 久野 (1978)

久野 (1978) では、授受動詞と視点の関わりについて、「日本語の「貰ウ、聞ク」、英語の receive from, hear from が共に主語よりの視点を要求」する、とされている。さらに、「これらは、行為主体を主語の位置ではなく非主語の位置（奪格）に置く数少ない動詞である。」(p.161-162) と述べ、日本語のモラウに関して授与者の表出が主語位置に現れないことを指摘している。

2.2 庵他 (2000, 2001)¹⁾

庵他 (2000, 2001) は、授受動詞の意味に関する記述として、ものの収受にモラウが用いられること、その際には恩恵の関わる物が収受されることを指摘している

モラウが補助動詞として用いられる場合にも、同様に収受に恩恵が関わり、恩恵行為の収受を表す。

また、庵他(2001:112)では、モラウの補助動詞としての用法に関して、「「～てもらう」は「～させると同時に主語がその恩恵をこうむる」といったように、主語に置かれた人物が意志的に事態を引き起こそうとする場合にも用いられ」る、とし、～テモラウが用いられる際には、受益者の意志性や働きかけが関与するとしている。

さらに、補助動詞としての～テモラウを用いて、他者への願望 (テモライタイ²⁾)、許可求め (サセテモラウ)、依頼 (テモラエル)、指示 (テモラウ) のような機能を担う用法も挙げられている。

2.3 益岡 (2001)

益岡 (2001) は、補助動詞の用法としてのテモラウについて、受動型 (相手から一方的に動作を受ける) と使役型 (相手に対する働きかけが認められる) という意味的な二つのタイプを認めるものである。

後者の「使役型」は、先の庵他 (2001) のいう働きかけの関与に通じるものであると考

1) 庵他 (2001:170) では、「そんなことしてもらっては困ります。」のような恩恵を表さない用法も挙げられているが、本稿ではこの用法については考察の対象外とする。

2) 「テモライタイ/テホシイ」について、宮川 (1998) では、それぞれの通時的な使用状況を観察しているが、本稿では通時的側面には言及しない。

えられる。

2.4 水谷 (2001)

水谷 (2001) は、日本語の補助動詞が英語に訳出される度合を会話体、論説体において調査したものである。

特に日本語の授受動詞に関して英語の対照を行った結果、日本語の授受補助動詞は英語に訳出されない傾向が見られる一方で、英語から日本語への訳出において、英語にはない授受表現の付与が見られることを明らかにしている。

2.5 上田 (2000)

そもそも授受表現に関する日西対照については、すでに高橋 (1998:145) に「日本語では頻繁に「…してあげる, …してくれる」という表現を使うが、スペイン語ではこれを表現する方法がない。しかし、そのニュアンスは間接目的語で表すことができる。」という記述が見られる。

上田 (2000) は、日本語の授与補助動詞 (テアゲル, テクレル) とスペイン語の与格接語³⁾ との対応関係について、「二言語コーパス⁴⁾」を用いた検証を行ったものである。

ここでいう与格接語の意味としては、対象, 利害, 所有が挙げられており、与格の本質は関与性であるとされている。

同研究では、「私は先生に0点をいただいた」のような表現が不自然であることから、授与動詞の本質は恩恵の授与を示すことであり、同様に授与補助動詞の本質は恩恵の行為を示すことであるとし、そこから、授与補助動詞は受益者を想定する、としている。

授与動詞の受益者の表出に関しては、上田 (2000:18) では、「テクレル, テヤル, テアゲルが想定する受益者は言表に現れない要素であり、それが場合によって言表の要素と一致することがある」として、受益者が必ずしも言語形式として表現されるわけではないことが指摘されている。ただし、これは、アゲル・クレルを用いて訳せる文において、動詞項としての与格接語に無条件に恩恵性に対応させ、授受動詞相当表現とみなすものではない。

2.6 山田 (2004)

山田 (2004) は、ベネファクティブという包括的な観点から日本語の授受表現を詳細に

3) 「与格接語」について「間接目的語」等の用語の異同に関しては、本稿では立ち入らない。

4) 研究社『新スペイン語辞典』の用例のうち、用例句を除くすべての完全文。全24,218例。

考察したものである。この中にベネファクティブに関する類型論的研究が収められており、日本語の授受動詞構文と諸言語との対応が示されている。

3. 日本語とスペイン語の対照

上に概観した上田(2000)では、たとえば「物価が下がってくれて助かった」に対して、「物価に下がってもらった」のような表現ができないことについて、「…テクレルが(…テモラウのように)恩恵の授与者ではなく、その受益者(「私」や「私たち」)を想定しているから」という説明を与え、授与動詞と収受動詞の受益者に関する違いに言及している。

このような違いがあるとすれば、日本語の授受動詞のうち、授与ではなく収受を表すモラウは、スペイン語ではどのような表現と対応するのであろうか。これが本稿の考察の主旨である。

3.1 スペイン語の与格の意味

Campos (1999: 1546-1548) では、スペイン語の与格が表す意味を、dativo de recepción o destino (着点), dativo de interés (利益), dativo de separación (分離), dativo de suficiencia (充足), dativo de posesión o simpatético (所有), dativo ético (心性), dativo de relación (関連) の7つに分類している。

このうちdativo de interés, いわゆる「利益の与格」については、恩恵や被害を被る相手を示すのに用いられる。

Le corté el césped a Maggie. マギーのために芝生を刈ってあげた。

Kiko le construyó una mansión a Patty. キコはパティに豪邸を建ててやった。

(ibid: 1547.下線は引用者)

このような場合、日本語として「刈った」「建てた」だけでの訳出は不自然であり、「あげる」などの授受表現を用いた訳出がなじみやすい。

3.2 上田(2000)の対応関係の分類

上で概観した上田(2000)では、日本語の授与動詞とスペイン語の与格接語の対応関係が挙げられている。本稿での考察にあたり、この対応関係を以下に引用する。

①日本語の授与動詞と、スペイン語の与格接語が一致する

(1) 授与動詞と与格接語が並行的に対応する

僕に君のライターを貸してくれるかい? ¿Me prestas tu encendedor? (p.38)

(2) 授与動詞と利益の与格 (dativo de interés) が対応し、関与性を付与する
スープが冷めているから暖めなおしてくれる? La sopa está fría... ¿Me la recalientas?(p.38)

(3) 授与動詞と与格重複構文が対応する

私は自分の一番よいカセットをいくつか選んで入院中の友人に貸してあげた。

Seleccioné mis mejores cassettes y se los presté a mi amigo que estaba en el hospital. (p.39)

②日本語の授与動詞だけが現れる

(1) 対格接語との対応／受益者の表出

君を市場まで連れて行ってあげよう。 Te llevaré al mercado. (p.40)

(2) 接語との対応なし

一緒にいてくれてありがとう。 Gracias por tu compañía. (p.40)

(3) 依頼表現

ラジオの音をもっと大きくしてくれない? ¿Quieres poner más alto la radio? (p.40)

③スペイン語の与格接語だけが現れる

(1) GUSTAR型の動詞の構文において、与格接語が直接関与者 (経験者) を表す

Me gusta viajar. 私は旅行が好きだ。

Me duele el vientre. 私はおなかが痛い。 (p.42)

(2) 与格接語が被害者を表す

El estómago se me ha descompuesto con el helado.

私はアイスクリームでおなかをこわしてしまった。 (p.42)

(3) 伝達動詞の構文において、与格接語が着点を表す

Santiago me ha contado que tiene líos con sus hijos.

サンティアゴは子供のことで問題があると私に話した。 (p.42)

3.3 言語資料

日本語の収受動詞モラウ, イタダクとそれに対応するスペイン語表現を考察するために、言語資料として『二言語コーパス』『坊っちゃん』『高瀬舟』『N.P.』『羊をめぐる冒険』を用いて調査を行った⁵⁾。

5) 以下では言語資料名を次のように略称する。

bi: 二言語コーパス, bo: 坊っちゃん, ta: 高瀬舟, np: N.P., hi: 羊をめぐる冒険

なお、『坊っちゃん』『高瀬舟』については、青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp> を出典としているため、引用ページは付さない。

3.4 調査結果と考察

上記の言語資料を調査対象とした結果に基づき、日本語のモラウ・イタダクとスペイン語表現との対応関係について、先の上田（2000）の分類を援用し、受益者の表出形式（①～③）と对人的用法（④）の観点から、次のように分類して示す。

①受益者が主格で表出される

②受益者が与格接語で表出される

(a) 直接的收受, (b) 間接的收受, (c) 利益の与格, (d) もともと恩恵的收受を表さない動詞

③受益者が対格接語で表出される

④機能表現としてテモラウ・テイタダクを用いる

(a) 依頼, (b) 許可求め, (c) 願望, (d) 感謝

なお、スペイン語における与格接語、対格接語の体系は次のようになっている。

	与格接語		対格接語	
	単数	複数	単数	複数
1 人称	me	nos	me	nos
2 人称	te	os	te	os
3 人称	le(se) ⁶⁾	les(se) ⁷⁾	彼 lo/le 彼女 la あなた lo/le, la そのこと lo	彼ら los 彼女ら las あなたがた los,las

以下では、上のそれぞれのタイプについて用例を挙げながら考察を進めていく。

(用例中の動詞(句)を____, 受益者となる与格接語を____, 受益者となる対格接語を____でそれぞれ示す。)

①受益者が主格で表出される

日本語、スペイン語のいずれにおいても、下のよう、受益者が主格で表出される構文を用いた用例が見られる。

1) それにお牢を出る時に、此二百文を戴きましたのでございます。

Y ahora, al salir de la cárcel, recibí estos doscientos mon. (ta:22)

6) 3 人称の対格接語と共に用いられる場合。

7) 上記注 6 に同じ。

2) 礼を云って貰っておいた。

Así que acepté el dinero, mostrándome agradecido. (bo:21)

上記の例のように、モラウ・イタダクと recibir, aceptar など収受の意味を持つ動詞の構文が対応しており、恩恵物の収受を表し、受益者が動詞項としての主格となる。つまり、授与者と受益者の格関係が日本語とスペイン語の間で並行的となっている。

受益者を主格とするモラウと並行的な対応を示すスペイン語表現の場合には授与者が表出されにくい。授与者の表出が見られる場合には

3) Rebeca recibió congratulaciones de sus amigas por su triunfo.

レベッカは友人たちから成功を祝ってもらった。(bi:20810)

のように、動詞の必須項とはならない前置詞句（前置詞 de 以下の句）を用いて表示することがある。

②受益者が与格接語で表出される

(a) 直接的収受

日本語のモラウに対応して主格と与格接語との間の直接的な収受を表し、授与者が主格で、受益者が与格接語で表される。スペイン語では①のような収受を表す動詞よりも、dar のような授与を表す動詞がモラウと対応しやすい。

4) 初めて会ったとき真昼の公園でおごってもらったアイスのとけるのがすごくはやか
ったように。(np:197)

... a la velocidad vertiginosa con que se derritió el helado que me compraste en el
parque, el mediodía del día que nos conocimos. (np:165)

5) バイト先でもらってさ。(np:114)

Me lo dieron en el trabajo. (np:99)

6) みんなやったってこれからは月給を貰うんだから構わない。

Aunque los ventilara íntegros, como iban a empezar a pagarme un sueldo al mes,
¿qué problema haría? (bo:30)

7) Nos ofrecieron frutas muy varias. (bi:18696)

私たちは実にさまざまな種類の果物をいただきました。

上記 5) ~ 7) に見られるように、スペイン語で授与の意味を表す dar, pagar, ofrecer 等においては、授与者である主格が無人称となる用例が散見される。このように授与者が明示されにくい傾向が、①と同様に見られ、授与者が主格となる構文では

8) (=5)) バイト先でもらってさ。(np:114)

Me lo dieron en el trabajo. (np:99)

のように授与者が3人称複数形による無人称表示となることが多い。

もののやりとりを表す授受表現のうち、取受を表すモラウについては、益岡（2001）、庵他（2001）に指摘されているように、受益者による働きかけが存在する恩恵取受を表すこともある。このように、働きかけや意志性が関与した結果としての取受行為を表すのにモラウを用いる場合には、取受の結果である着点、つまり受益者の表出に重点があるのではないか。そのため、授与者は動詞の必須項であっても、必ずしも明示的に表出されず、とくにスペイン語ではこうした意図にふさわしい無人称主語による授与者表現がモラウに対応して好まれると考えられる。

(b) 間接的取受

受益者が与格で表される場合には、受益者への直接的な恩恵だけではなく、受益者の所有物への間接的な恩恵の取受を表す場合がある。

9) Fui al dentista a que me quitara una caries. (bi:10809)

私は虫歯を抜いてもらいに歯医者に行った。

10) Al jefe le gusta que le rían sus gracias. (bi:975)

上司は自分の冗談を笑ってもらいたがる。

11) Necesito contratar un pintor para que me pinte la fachada. (bi:17639)

家の正面のペンキを塗ってもらいにペンキ屋を頼まなくてはならない。

この場合、スペイン語でも、日本語の場合と同様に、恩恵が施される対象である受益者の所有物が対格で表出されていることがわかる。

(c) 利益の与格

12) No haría ese trabajo ni aunque me subieran el sueldo. (bi:17937)

給料をあげてもらったって私はそんな仕事などするもんか。

13) ¿Pueden ampliarme esta foto? (bi:19885)

この写真を拡大していただけますか。

これらの用例では、スペイン語における与格接語は動詞項として必須項ではないが、動詞の意味内容への関与者を示すために与格接語が用いられている。このような与格接語は、とくに「利益の与格」と称されるもので、モラウへの訳出になじむ表現である。

(d) もともと恩惠的収受を表さない動詞

日本語では、とくに行為の対象者が一人称である場合、モラウ・イタダクを伴わなければ不自然な表現となる動詞（オシエル、オクル [送迎する] など）がある。

- 14) 何年か前に先生に教えていただいたんです (hi上：200)

Me lo dijo el jefe hace unos años.

- 15) 2人で恋のさなかに見たいろんなこと、なま温かい夜の感触、送ってもらう朝焼けの道で、寝ぼけた頭でタクシーから見た、…そういうものの強い香りを思い出さなかった。(np：37)

Quería que recordara las cosas que habíamos visto los dos juntos, en el curso de nuestro amor: el tacto de una noche tibia, ...que habíamos visto adormilados desde el taxi, en el camino del arrebol de la mañana, cuando me acompañó a casa. (np：38)

- 16) してもらったことはある？ (hi上：162)

¿Te ha hecho favores parecidos?

オシエル・オクルスルなどはもともとは恩惠的収受を表さない動詞であり動詞の意味内容について、文脈上行為者とその行為の対象者との間に恩恵が関わった収受関係が設定される場合、日本語では授受表現が用いられる。一方で、スペイン語では与格接語による訳出が見られるが、この与格接語はいずれももともと動詞の必須項としての与格であり、恩恵の収受や行為の対象者の人称に関わらず表出されるものである。

このように、日本語では文脈上、恩惠的収受を表すとみなされ、テモラウやテイタダクがなければ不自然な表現となるような場合がある。

- 17) (=14) 何年か前に先生に教えていただいたんです (hi上：200)

Me lo dijo el jefe hace unos años.

かりに上記のスペイン語を逐語的に日本語に訳すならば、「何年か前に先生は私にそれを言った」となる。このことから、スペイン語の構文そのものには直接的に恩恵の収受を担う要素は見られず、スペイン語における言語形式そのものには恩恵性が関与していないと判断される。しかし、このような訳出よりも水谷（2001）が検証したように、授受表現を補った訳出のほうが自然である。

このように、日本語の言語文化においては恩恵の収受ととらえられる行為内容であっても、スペイン語では恩恵に関わる言語形式を明示しない場合がある。

③受益者が対格接語で表出される

上の①～②では、受益者が与格接語で表出されていたのに対し、受益者が対格接語で表出される場合がある。

18) わかってもらえるだろうか。(np : 64)

¿Podrán comprenderme? (np : 61)

19) 初めにおろしてもらうはずだった交差点で別れた。(np : 82)

Nos despedimos en el cruce donde tendría que haberme dejado al principio. (np : 73)

20) Al final Elvira se salió con la suya y su padre la llevó al cine. (bi : 955)

結局エルビーラは自分の思い通りにして父親に映画に連れて行ってもらった。

これらの対格接語は、②(d)の与格接語と同様に、動詞の必須項としての表出である。

④機能表現としてテモラウ・テイタダクを用いる

日本語のテモラウ・テイタダクは、本来の恩惠的表現に基づき、相手への恩恵が関わる行為である依頼や許可求めなど相手への働きかけを表す機能的表現としての用法を持つ。

(a) 依頼

21) ¿Puede usted darme cifras concretas? (bi : 19872)

具体的な数字をあげていただけますか？

この例のように、テモラウやテイタダクの可能形を用いた依頼表現に対して、スペイン語の可能を表す動詞poderが対応する例は非常に多く見られる⁸⁾。

(b) 許可求め

22) Perdona mi franqueza, pero te digo lo que siento. (bi : 19351)

悪いけど率直に私の感じていることを言わせてもらおう。

23) Permítame usted que me presente: Me llamo Ichiro Yamada. (bi : 19402)

自己紹介させていただきます。私の名前は山田一郎と申します。

許可を求める場合に、動詞の使役形を伴ってテモラウ・テイタダクを用いる表現があるが、スペイン語では23)のように許可を表す動詞permitirを用いるか、もしくは22)のように許可を表す形式が見られない場合もある。

8) 山田 (2004 : 259) では

Judith, [sic] podes [sic] prestarme los apuntes de la clase anterior por favor?

(ジュディス、前の授業のノート、ちょっと貸してくれない?) のような依頼表現が挙げられている。

(c) 願望

24) No quisiera que por mi causa llegaras tarde al trabajo. (bi:18318)

私のせいで君に仕事に遅刻してもらいたくない。

25) 君が是非辞職すると云うなら辞職されてもいいから、代りのあるまでどうかやってもらいたい。

Si se empeña en cesar, no hay inconveniente en que cese, pero mientras no nos llegue un sustituto, por favor siga en su puesto. (bo:197)

他者による行為実現の願望は、テホシイという形式でも表現されうるが、スペイン語においては、願望の動詞quererや、命令形を用いた表現との対応が見られる。

(d) 感謝

26) Gracias por su visita. (bi:10966)

来ていただいてありがとうございます。

27) *わざわざ来て ありがとう／すみません。

このように「ありがとう」のような感謝を表す表現に先行する場合には、「わざわざ来てもらってありがとう／すみません」のようにテモラウが必須である。

4. まとめ

ここまで、主に恩恵の授与者と受益者の表出を中心として、日本語の収受動詞モラウ・イタダクとスペイン語との対応を見てきた。

モラウ・イタダクとスペイン語の表現との対照においては、主に受益者が主格、もしくは与格によって表出される点で、一定の対応を見せていると言えるだろう。その一方で、スペイン語では収受の着点となる受益者をもっぱら表出させ、授与者は表出されにくいことがわかった。また、スペイン語ではモラウとの対応において、収受動詞（recibir等）よりも授与動詞（dar等）が好まれ、受益者は与格接語で表出する構文が多用されやすい傾向が見られた。この点については、授与動詞アゲル・クレルにおける対応と同様であると考えられる。

日本語のモラウの特徴として、依頼、許可求めなどの機能を担う表現としての用法が観察できる。これらは、可能形や使役形など特定の活用形態を伴った用法であり、相手への働きかけに機能する表現として、文法化の度合いが高い表現であると考えられる。これらの機能を果たす際には、イタダクという敬意表現も使用頻度が高い。

5. 今後の課題

本稿では、日本語の授受表現のうち、モラウ・イタダクの考察にとどまったが、さらに授受表現全体における日西対照を進めていく必要がある。その際には、どのような事態に対して「恩恵」が関与すると判断するのかについて、言語文化ごとの差異があることを考慮に入れなければならない。

また、日本語教育の面からみると、授受表現は初級で扱う重要な文法事項のうちの一つでありながら、誤用や非用が起りやすく習得が困難であるとされている。日本語とスペイン語との対照を行うことで、最終的にはスペイン語母語話者の日本語学習者への指導法に還元できるものを追究したいと考えている。

参考文献

- 荒巻朋子（2003）「授受文形成能力と場面判断能力の関係—質問紙調査による授受表現の誤用分析から—」『日本語教育』117号. pp.43-52
- 庵功雄, 高梨信乃, 中西久実子, 山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄, 高梨信乃, 中西久実子, 山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 上田博人（2000）「日本語の授与補助動詞とスペイン語の与格接語」『日本語とスペイン語（3）』くろしお出版
- 久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店
- 高橋覺二（1998）『スペイン語表現ハンドブック』白水社
- 福寫教隆（1990）「スペイン語と日本語—間接影響表現の対照—」『講座日本語と日本語教育12 言語学要説（下）』pp.197-218.明治書院
- 益岡隆志（2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」pp.26-32.『月刊言語』30-5.
- 水谷信子（2001）「第2章 補助動詞から見た日英の対照」『続日英比較話しことばの文法』pp.47-72. くろしお出版
- 宮川和子（1998）「シテホシイとシテモライタイ—シテホシイの進出・定着—」『国文学解釈と鑑賞』63-1. pp.41-50.
- 森田良行（1998）『日本人の発想, 日本語の表現』中公新書

山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』 明治書院

CAMPOS, Héctor (1999) “Transividad e intransividad”. *Gramática descriptiva de la lengua española*. (ed. BOSQUE, Ignacio y DEMONTE, Violeta) Tomo II. Cáp 24. pp.1519-1574. Madrid: Espasa-Calpe

YAMADA, Toshihiro (1996) “Some universal features of benefactive constructions.” 『大阪大学日本学報』 15. pp.27-45.

言語資料

『二言語コーパス』 <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/kenkyu/index.php>

El ocaso. Trad. Watkins, Montse. 現代企画室/Luna Books. 1999.

「高瀬舟」森鷗外 青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) 所収

El barco de río Takase. Trad. Gallego Andrada, Elena. 現代企画室/Luna Books. 2000

「坊っちゃん」夏目漱石 青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) 所収

Botchan. Trad. Rodríguez-Izquierdo, Fernando. 現代企画室/Luna Books. 1997.

『N.P.』吉本ばなな 角川文庫 1992

N.P. Trad. Matsuura, Junichi y Porta, Loudres. Barcelona : Túsquets Editores. 1994.

『羊をめぐる冒険』(上)(下) 村上春樹 講談社文庫 1985

La caza del carnero salvaje. Trad. Fernando Rodríguez-Izquierdo y Gavala. Barcelona: Anagrama. 1992